

まほら館だより

2022. 6 月

新書を読んでみよう

室内で過ごすことの多い6月は読書にぴったり。朝読書や課題研究のテーマ探しに「新書」を読んでみませんか？

新書ってどんな本？

文庫本より少し大きく縦長，縦 173mm，横 106mm が一般的だが，決まりはなく，独自のサイズにしている出版社もある。

イギリスの小型本を参考に，岩波書店が最初に手がけ，古典中心だった同社の文庫本と区別するため，1938年岩波新書と名づけ刊行を開始。時代にあう知識や教養を提供する役割をもたせた。

現在では多くの出版社が新書のシリーズをもち，内容はノンフィクションが中心で，入門的なもの，実的なものなど広範囲にわたる。

(出典 総合百科事典ポプラディア)



ひとつのテーマに対して様々な視点から考察した内容となっているので小論文や論文作成をするときのヒントになります。

約
173
mm

小さく軽い持ち歩きしやすいサイズで，カバンにもすっきり収まります。高校生向けのシリーズもあり，テーマもいろいろ！



約 106mm

～進路別★読んでおきたい新書をPICK UP!～

◇人文系・・・研究対象は文学，語学，文化，そして人間そのもの。



「空気」を読んでも従わない / 鴻上尚史 (岩波ジュニア新書)
知の体力 / 永田和宏 (新潮新書)

◇教育系・・・教育の本質や目的を学び，教員を養成する。

わかりあえないことから / 平田オリザ (講談社)
友だち幻想 人と人の<つながり>を考える / 菅野仁 (ちくまプリマー新書)
本物の英語力 / 鳥飼玖美子 (講談社)

◇経済系・・・経済の動きを分析し、現代社会に応用する。



人工知能と経済の未来 2030年雇用大崩壊 / 井上智洋 (文春新書)
未来の年表 人口減少日本でこれから起きること / 河合雅司 (講談社現代新書)
限界集落の真実 / 山下祐介 (ちくま新書)

◇社会学系・・・研究対象は、法律・政治・経済など社会生活に欠かせない全ての社会現象。



希望のつくり方 / 玄田有史 (岩波書店)
若者が無縁化する / 宮本みち子 (ちくま新書)

◇福祉系・・・社会系の学部。社会の構造や人間生活のあり方を追究する。



なぜ人と人は支え合うのか / 渡辺 一史著 (ちくま新書)
障害者について考えることは、健常者について考えることであり、自分自身について考えることでもある。人と社会、人と人のあり方を根底から見つめ直す。

◇スポーツ・芸術系・・・運動と心身の育成・健康のつながり、社会との関わりを学ぶ体育系、それぞれの芸術の理論と実技を学ぶ芸術系。



妄想美術館 / 原田マハ・ヤマザキマリ (SB 新書)
ルネサンス、印象派、現代アート…。アートを溺愛する作家と漫画家が、名画にまつわる裏話、お気に入りの美術館案内、絵画鑑賞の秘訣、画家たちの知られざるエピソードなどを語る。



やりたいことが見つからない君へ / 坪田 信貴 (小学館 Youth Books)
多くの子どもたちの進路を見守ってきた塾講師が、やる気の出し方や、10代の過ごし方、本当の自分の見つけ方、失敗との向き合い方などを伝える。

今回紹介したのは、まほら館にある新書のほんの一部です。

一冊でも多く手に取って、自分の進路や興味のある分野を見つけられる一冊と出会うきっかけになると嬉しいです。借りる本に迷ったら、ぜひ声をかけてください。

～まほら館よりお知らせ～

◇錦江祭 図書部は展示部門で参加します♪

- 『錦江湾高校推薦図書 2022』先生方のお薦め本と紹介カード、図書部員によるお薦め本のPOPと、本の展示をします。今後の読書の参考にしてみては？
- バックナンバーの雑誌リサイクル市、常時開催中
雑誌の入れ替えは、随時行っています。
- 大型絵本の展示・・・興味のある方、“読み聞かせ体験”してみませんか？
みなさんのご来館をお待ちしています。